

全佛婦

No. 137
2023年夏号
8月10日発行

佛法
功德



公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

全佛婦137号

令和5年8月10日 発行日

編集委員 編集人

花岡真理子 発行人

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電話

<http://jbwf.jp> URL

info@jbwf.jp MAIL

本多良之師 表紙画

巻頭言

(公財) 国際仏教興隆協会 理事長
総本山知恩院 副門跡
大樹寺 貫主

中村康雅



全日本仏教婦人連盟の皆様が、昭和二十九年設立以来の本志を貫かれ、仏教を通じた社会貢献を発展的に継続されていますことにより、私自身もまた仏教婦人の皆様によってお育て頂いたことを思い返しております。

仏教を説き弘められましたお釈迦様は、生後七日にして母君をお亡くしになられていますが、王位を捨てて苦行の道に突き進まれたのには、亡き母君の導きがあらわれてのことであらうと拝察致しています。

そんなお釈迦様のご生涯とみ教えが日本に伝来し、比叡山横川の恵心僧都によって「**厭離穢土 欣求浄土**」の教えとして広まり、公家貴族方に信仰されましたこと、平等院鳳凰堂や中尊寺金色堂等が建立されました。さらにその教えを礎として比叡山から下りられた法然房源空上人により武家や庶民にも広ま

り、鎌倉仏教のお祖師方が次々に顕れて、すべての人に仏教が開放されていきました。以来、明年で八百五十年となります。

縁あって小納は、浄土宗の総本山知恩院の御門跡をお支えする副門跡の任を授かりながら、徳川將軍家の位牌を祀る大樹寺をお預かりしております。徳川の祖である家康公は仏教への信心が深いお方で、その様子が現在放映中のNHK大河ドラマの中にも垣間見えます。

家康公は、三河岡崎城主の嫡男としてお生まれになりますが、数え三才にして政略により母君と生き別れることとなります。さらに攻勢を強める織田氏に備えるべく、数え六才にして父君の命により今川氏の人質に出されますが、護送係によって織田氏に売り渡され、尾張の寺で人質生活を送ることになります。数え八才にして父君が急死し(一説に暗殺とも)、突如として岡崎城主となられました。

に世界でも稀に見る二六〇年に亘る平和な世をもたらず「將軍(大樹)」とられました。母君はその姿をご覧になられた年に人生の幕を閉じられ、家康公はその恩義に報い弔うべく、知恩院を永代菩提所と定められました。

知恩院は、平安時代の末、飢饉や災害、疫病が重なり、権力が公家から武家、平氏から源氏へと目紛しく変わる激動の時代にあつて、人々に安らぎを与え続けた救いの地であります。家康公がそこを菩提所と定められたことは、安楽な世を願う心の表れであらうと拝しています。

さて、私たちを取り巻くグローバル化した社会は、感染症の流行や一触即発の世界情勢、三分の一の食糧が破棄される中にあつて十人に一人が餓死する現実、多様化が抱える問題等々抱えており、平安時代末期や戦国時代と重ねられることがあります。

そのような時代であればこそ、私たちは家康公のように、仏さまの教えを人生の旗印としていかなければなりません。**三宝帰依**や**五戒**、**四無量心(慈悲喜捨)**という仏教徒の根本を今一度思い返し、その上でそれぞれのお宗旨の多様性を認め合うことを忘れず、共に歩んでいく姿勢が益々求められるであろうと存じます。仏教婦人の皆様の輪がより一層広まり、旗印を共にして歩まれることを祈念申し上げます。

岡崎に戻ることは許されません。程なくして今川氏が織田氏の子息を捉えたことで人質交換という形で駿府に送られ、寺(臨濟宗)で学びながら武芸に励むこととなります。やがてその才が認められるや、今川家臣として桶狭間の合戦に挑みますが、合戦の最中今川方の大将義元公が討死したことで、戦乱の世に自らの居場所はないと失望し、大樹寺に逃げ込み、先祖に詫びて自害切腹しようとして、そこに、時の大樹寺住職・登誉上人が駆けつけ、諫めつつ白布に「厭離穢土 欣求浄土」と墨書してその教えを説かれます。

「穢土」は、忍土とも呼ばれ、苦しみを耐え忍ぶこと多きこの世を指します。欲望渦巻く目の前の乱世であり、そこを厭い離れんとする決意が「**厭離穢土**」の四字にあります。

「浄土」は、楽土とも呼ばれ、苦しみなき安楽なる処であり、その究竟するところが後生浄土であります。安らげる彼岸の暮らしを欣び求む心が「**欣求浄土**」の四字にあります。家康公は、この八字の教えにより、新たな命を授かり、「この穢土を共に生き抜こう。争乱なき浄らかな世界を求めてよりよく生きよう。」と力をみなぎらせました。

爾来、人生の大願として八字を旗印とされ、穢土を浄土に近づけるべく、忍土を楽土と変えるべく尽力されます。政略により生き別れた母君を迎え入れ、共に戦乱を生き抜き、遂

末筆ながら、私がかとう一つみ仏から課された職務・国際仏教興隆協会理事長としてご報告と御礼を申し上げます。

皆様のご支援により継続されています印度山日本寺(北河原公敬竺三王)の「**光明治療院**」ですが、インドの法改正等により現地での活動がこれまでの無償医療の提供から防疫や日常における健康衛生や保健指導の促進に軸を移して活動させて頂いております。この活動は日本寺がインドにあり続ける大きな意義となっております。ご支援とご尽力に衷心より御礼申し上げます。

合掌

中村康雅 略歴

昭和21年9月	出生
昭和57年10月	實相寺住職
昭和60年4月	浄土宗静岡教区青年会会長 浄土宗静岡教区教化団理事
平成3年10月	浄土宗宗議会議員
平成12年5月	清水地区保護司
平成19年11月	浄土宗宗議会議長
平成24年3月	浄土宗総本山知恩院執事 おてつぎ運動副本部長 布教部長・財務部長
平成28年6月	公益財団法人国際仏教興隆協会理事長
平成28年9月	大樹寺貫主
令和4年7月	浄土宗総本山知恩院副門跡



問

今ここを

おいて

どこへ行くこうと

するのか



愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長

青山俊董 老師



青山俊董◎あおやまじゅんどう

昭和8年、愛知県一宮市に生まれる。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長に。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。昭和54、62年、東西靈性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。昭和46、57年、平成23年インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。昭和59年、平成9、17年に訪米。アメリカ各地を巡回布教する。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。

平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺(博多)僧堂師家。

第1講

たった一度の命をどう生きるか—— お釈迦さまの仏法 教えを聞くアンテナ(1)

さらにもう一つ。そういう教えや教えを説く人に出会うためには、アンテナが立っていないと、出会いは成立しません。同じ話を聞いていても、たとえば、電機がどんなに素晴らしい装置を持っていても、スイッチが入っていないければ光りはしません。そういうように、どんなに教えを聞いていても、アンテナが立っていないければ、スイッチが入っていないければ話聞けない。人にも出会えない。そこですね。

天地総力をあげてのお働きをいただいて、刻々の命の営みがあるという。命の尊さを自覚する働きをいただいた人間として、命をいただくことができた。さらにその命の尊さを説く教えに出会うこと

出会うことができた。アンテナが立っていないれば出会えない。このアンテナということで、思い出すことがあります。

わたくしは、だいぶ前のことですが、「ユーキャン」から三十巻ほどのCDを出しております。その「ユーキャン」が主催する京都講演でのこと。お話が終わりまして、扉の外へ出ました。日本中から駆けつけたメンバーの、いわゆる握手攻めにあつておりました。

後ろの方に、四十代半ばの奥さまが涙を流しながら順番を待って

ができた。教えに出会えなかったら、気づかないで終わるかもしれない。遠いとか、忙しいとか言っているうちは本気ではないでしょう。本気に求める心があつたら、どんなに遠くても、どんなに忙しくても何とかなるものです。

本気に求める心があつたら、どんなに遠くからでもやってきます。遠いとか忙しいというのは、言い訳にすぎない。本気でないこと、の言い訳にすぎないと思っております。

いずれにいたしましても、まずは本気のスイッチが入っていないければ、同じ場所と同じ話を聞いていても聞こえてこない。その人に出会っていても出会いは

いた。番がきて、前に進んできてこう言いました。

「三十何年前、奈良の法隆寺で合掌させていただいたものです」と。

わたくし、そのときの様子が非常に心に残っておりますので「ああ、あのときの方ですか」と、わたしも奇しき再会を喜びました。

今からですと、三十五、三十六年前になります。奈良へお話に行つて少し時間がありましたので、ふと法隆寺を訪ねました。平山郁夫先生の「法隆寺はシルクロードの終着点」というお話を思い出したので。

中宮寺も訪ね、静かに南大門の方に向かい、古い土塀に沿って歩いておりました。どここの小学校の修学旅行生かはわかりませんが、団体でわたしを追い越して行きました。その方とは関係なくわたしは、ゆっくり法隆寺のたたずまいをたのしんでおりました。

一人の娘さんが、わたしを追い

成立しない。

ということ、さいわいに、気づかせていただく、自覚することができる人の命を頂戴できた。しかも人の命の尊さを説く教えに出会うことができた感動、それが「人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く」。容易ならぬ勝縁をよろこばせていただきねばなりません。

本気で求めるアンテナが立っていない人は、聞いていても聞けない。さいわいに、本気で求める心を持たせていただくことができた。ありがたいと思わなければなりません。みなさんがこうして万障繰り合わせてでも参会させていただける喜び、そして、教えに



越しぎまにふと立ち止まって、丁寧に合掌して頭を下げた。わたしは、ハツとして思わず合掌を返しました。

一瞬のことで、お顔はわかりません。セーラー服の後ろ姿を目で追いながら、「どういふ家庭で育った娘さんかなあ」と思いました。

小学校六年生、十二、十三歳でしようかね。団体で行動している。どこの尼僧かわからないが歩いてるのを、追い越しぎまに思わず合掌した。思わずというのは、普段お寺さんの出入りがあつて手を合わせて送り迎えしているか、あるいは仏壇に朝晩、手を合わせているか。手を合わせるということ、が身についていなければ、大勢で移動しているときに、旅先のどこか誰だかわからない尼僧に、追い越しぎまに合掌することはなからう、と思います。

(次号に続く)



不空絹索観音さま

ほとけ
サイン
Sign

東叡山寛永寺護国院准胝観音



「ほとけさまのサイン」
編集・発行 天台宗出版室

著者略歴
【浦井正明(うらいしょうみょう)】

浦井正明師：「阿弥陀さまはなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖い顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。(中略) 仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願ひ、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

昭和12年東京生まれ。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

あまり聞きなれないお名前ですが、絹索とは網(絹)と繩(索)のことです。

この観音さまは、私たちに手を差し延べて下さるだけではなく、網や縄を使って、私たちを洩さず救って下さろうとしておられるのです。

しかも、そうした観音さまの願ひは「不空」(空しくない)というのです。

そのことは、この仏さまのことを説いたお経の中に、「この観音さまの深い慈悲の網や縄から洩れる人は誰もいない。しかも、この観音さまの願ひは決して空しいものではないので不空という」のだと説かれていることを見ればわかります。

八本のお手

ところで、この観音さまには、一面、二面、十一面などのお姿があり、目は二目です。お手も二臂(二本)から、四、八、十、十八臂など、さまざまなお姿をしておいでです。

この内、東大寺の場合は一面八臂のお姿です。中央で合掌した二手の掌の中には宝珠の形をした水晶

をお持ちですが、それは宇宙を表しているのです。

次に、右の第一手には錫杖を、また左の第一手には蓮華を、更に、左の第三手にはこの仏さまの願ひの象徴である絹索をお持ちです。これと対になる右の第三手には、もとは仏子(現在はない)をお持ちでした。仏子は悪い虫を追い払うことから、転じて煩惱を払うことを意味しているのです。また、左右の第四手は軽く曲げておられるように見えますが、やはり与願の印なのです。

ところで、頭上の冠は二万数千個もの玉をちりばめた素晴らしいものですが、その中央には阿弥陀如来さまがおいでになって、この仏さまが観音さまであることを示しておられます。

ついながら、この観音さまの光背は独特の舟形で、四十二筋もの光(身光)をお身体から発しています。そして、その全面に亘って美しく咲いているのが、極楽の華・宝相華なのです。

准胝観音さま

この観音さまは、サンスクリット語のチュンデー(清浄の意)を音写して准胝と申し上げるのですが、不空絹索観音さまと同様に、非常に作例の少ない仏さまです。そして、この観音さまの願ひは、人々の争いを鎮め、病苦をいやして下さることにあるのです。

でも、一方では、この観音さまは本当は観音さまではないともいわれているのです。その場合には「准胝仏母」とか「七俱胝仏母」などとお呼びして、菩薩さまではなく、如来(仏)さまだと考えるのです。

仏母とは、その名の通り、すべての仏、菩薩さまの母という意味です。また、七俱胝とは数えきれない数のことです。

というわけで、普通は男女の別をつけない善の仏さまの中でも、この

仏さまは特に女性とされている仏さまでもありません。

准胝観音さまのお姿は、一面、三目、十八臂で、普通は二竜王の支える蓮華の上に坐っておられますが、お立ちになる場合も多いのです。

十八本のお手にお持ちの持物は、それぞれこの仏さまが、聡明、愛情、敬愛、降雨、子授け、安産、延命などの願ひを叶えて下さることを意味しています。

六観音さま

六観音さまは六道に対するもので、真言宗では、聖観音、千手観音、十一面観音、馬頭観音、如意輪観音と准胝観音の各観音さまをいいますが、天台宗では、准胝さまを仏母であると考えていますので、代わりに不空絹索観音さまをお入れして六観音さまとしています。

ただ、時にはこの両観音さまを共にお入れして、七観音さまとお呼びすることもありますが。

公益社団法人全日本仏教婦人連盟

第11回総会開催並びに第32回理事会開かれる



2023年6月14日(水)11時より浄土真宗東本願寺派本山東本願寺にて22人の出席によって全日本仏教婦人連盟第11回総会が開催されました。

午前11時より御本堂において本多理事の司会、東本願寺讚衆による勤行が行われ、次に城正弘師によるご法話があり、東本願寺様の歴史、御本堂のご本尊、内陣の上人などのお話に一同は聞き入りました。

次に慈光殿「梅檀の間」に移動してお昼食のお弁当をいただき、全員で食前の偈、食後の偈をお称えしました。

午後1時より「蓮の間」において総会が行われました。梨本副理事長により開会が宣言され、日比野常務理事先導で三帰依文をお称えしました。次に花岡理事長の挨拶

副理事長に選定され、続いて本多、遠賀、海老塚、桶屋、米田氏の5名が常務理事に選定されました。

なお、前理事の岩脇孝子氏は参与に選任されました。

以上をもって、午後3時議長により理事会は閉会されました。



抄に続いて海老塚常務理事が議長に、議事録署名人は本多理事、末廣綾氏が選出されました。

決議事項として、第一号議案 2022年度収支決算

第二号議案任期満了に伴う理事・監事選任の件

第一号議案 2022年度事業報告は遠賀常務理事、同収支決算は事務局より報告され監査報告の後、承認されました。

第二号議案 理事、監事の選任が行われ、理事11名は花岡眞理子、梨本三千代、本多端子、遠賀令子、

海老塚るり子、桶屋良法、米田陽子、大橋百合子、松井百合子、村主みや子、湯浅正江氏、監事2名は木村匡成、高崎悦子氏が選任承認されました。

報告事項 2023年度事業計画は桶屋理事、同収支予算は事務局より報告されました。

午後2時15分梨本副理事長が閉会を宣言しました。

引き続き、午後2時30分より第32回理事会が同会場で行われ、議長になり、新理事の出席に よって開かれました。新理事の中から花岡氏が理事長に梨本氏



公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 役員

2023年6月14日より2年間

役職	氏名	所属
会長	東伏見具子	天台宗
副会長	加用稔子	浄土宗
副会長	吉田真理	真言宗御室派
相談役	岡野鄰子	孝道教団
顧問	林恵智子	臨済宗妙心寺派
参与	末廣久美	天台宗
参与	鈴木トヨ子	真言宗智山派
参与	岩脇孝子	真言宗豊山派
理事長	花岡眞理子	真言宗智山派
副理事長	梨本三千代	真言宗豊山派
常務理事	本多端子	浄土真宗東本願寺派
常務理事	遠賀令子	天台宗
常務理事	海老塚るり子	真言宗智山派
常務理事	桶屋良法	念法真教
常務理事	米田陽子	天台宗
理事	大橋百合子	真言宗智山派
理事	松井百合子	曹洞宗
理事	村主みや子	真言宗中山寺派
理事	湯浅正江	天台宗
監事	木村匡成	公認会計士
監事	高崎悦子	浄土宗

静岡県仏教婦人会

ついでに 生きる

本年4月発行『沙羅の樹』No.18の「REPORT！」コーナーで、静岡県仏教婦人会とフードバンクとの関わりを紹介しました。今回は実際に静岡県沼津市で、食品配布会などの活動をされている方々の取り組みを紹介します。

「サポぬま」の詳細はこちら↓



<https://saponuma.wordpress.com/>

当連盟と関わりの深い静岡県仏教婦人会が、フードバンクに協力し、

県大会など折に触れフードドライブ（食品回収活動）を行っているのを目にしてきました。その活動に感銘を受け、私たちにも何か出来るのではないかと度々勇気づけられて来ました。そんな熱意ある皆さんの活動は、様々な方々とのつながりの中で育まれたそうです。

6月23日、沼津市の真宗大谷派真楽寺と、多目的福祉施設「サンウェルぬまづ」を取材しました。

真楽寺では食品回収ボックスが常設されています。集まった食品は、毎週金曜に「サンウェルぬまづ」で開催される食品配付会で、市場から届いた野菜などと共に配付されます。

この食品配付会は、母子・父子家庭がお互いに助け合うために作られた「沼津市ひとり親会」や市民ボランティア団体の「沼津市学校給食を考える会」、NPO法人の市民グ

ループ「サポぬま」など様々な団体が、協力しあって運営しています。

「サポぬま」の小和田尚子さんと「静岡県ひとり親福祉連合会」の工藤弘子さんにお話を伺いました。

Q. コロナ禍により、どのように状況が変わっていきましたか？

今のスタイルは令和2年10月から始まった活動です。食品配付利用者は令和3年2月には22世帯でしたが、今年5月には190世帯になりました。コロナになり、令和2年2月末に休校になって給食が無くなりました。その為すぐにお寺での配食、食糧支援活動や地域の方からのお弁当の提供がはじまり、「学校給食を考える会」が青果市場をつないでくださって、野菜の配付が始まりました。

令和2年当時毎週金曜日に行っていた学習支援の場で、食品配付や

会食を行っていたのですが、コロナ蔓延と共に配付数が増えたため、令和3年より食品支援活動に移行しました。

Q. 沢山のお野菜や、寄付のお菓子が圧倒されました。

4月の段階では野菜の量が多く、1台の車では乗せきれないくらいだったのですが、今日は1台で充分でした。かなり量は減っています。今は寄付してくださる企業も、運送費や電気代が上がっているの、どうしてもコストカットをしないとイケない。そうすると食品ロス削減を、となるんですね。

スーパーは毎日一括で大量に仕入れます。消費者は綺麗で新鮮な物を求めるので、売れ残ったものは加工や廃棄します。私たちがいただくのは、そのような一度スーパーに並んだ物や規格外品などです。他には子どもが食べたことのないものや、季節の果物など。例えばウドや、栗

や柿、温室みかんなどを市場が寄付してくださっています。もちろん市場の方以外にも、お寺さんや企業からいただいています。輸送費が高くなっている事や、運転手が少ない事、遠方から持ってくるのが難しくなっています。今はなるべく同じ地域から集める努力をしています。





Q. こちらの食品配付会では、どんなこだわりを持って活動しているのでしょうか？

なるべく親御さんには、食事を作る力をつけて欲しいと考えています。子どもたちはお母さんにも作ってもらったご飯を、本当に喜んでくれます。なのでカップ麺やレトルトなど、例えばアルファ米も炊飯器にかけると美味しいなど、一手間かけることを推奨しています。野菜を配布することで、今まで野菜を買えず料理が作れなかったお母さんたちも、出来るようになっていきます。

食品配付後、ひとり親会のLINEグループでこんなもの作ったよという写真や、料理のレシピ、感想などを皆さんアップしてくれます。給食を考える会の方が、それをまとめて、すぐにレポートを作成してくれます。それを市場の方に渡し、またLINEグループでも共有します。市場の方も、すぐに反応が来るので嬉しいと思いますし、お母さんたちが料理するモチベーションにもなります。私たちだけでやっていたらできなかつた事です。

様々な活動をしている団体と、連携してこそ出来ることだと思います。

Q. 色々な支援団体が協力しあって活動をしているのですね。最初からこのような形だったのですか？

初めは本当にバラバラに活動していた団体同士でしたが、コロナ禍の中で、徐々に各団体が近付きました。市場の野菜は「学校給食を考える会」の協力で、こちらにいただいています。

例えば若者支援の団体だと、若者は食事を作れないので、ひとり親会が作ってあげます。そしてひとり親会が出来ないことを、若者支援の方がフォローしてくれるのです。夏休みの子供たちの居場所がない、となったら真楽寺さんのようにお寺がフォローしてくれる。困ったな一と思っていると、助けてくれる人が出てくるんです。

この食糧支援をやったから、バツと繋がったのかもしれませんが、元々沼津は困ったというところの方が動いてくれる地域です。就労支援でもここに働きたいという人が

いると、すぐに動いてくれる方が多い。ボランティアの方だけでなく、一般の方々もそうです。例えば、道に迷ってる人がいると必ず声をかけるし、じゃあ車で連れて行ってあげるわとなる。ここの居心地の良さは、こういう沼津の市民性もあるのかなと思います。

Q. この先の展望はどう考えていますか？

今は金曜日だけの食品配付会ですが、いつでもフラットと寄るとすぐに何か支援を受けられる、という状況にしたいですね。気軽に困り事を言える場所、拠点があると良いですね。今お寺がその場所でもあります。コロナで全施設が閉鎖している時は、お寺さんで配付会をやっていたこともあります。

海外では料理好きな若者が自由に料理して、それを必要な人に食べてもらうというような支援が、カジュアルに公的なレベルで行われています。しかし日本は法で、非常に厳しく管理されています。小さいコミュニティだと可能かもし

Q. 最後に、お寺が出来ることはありますか？

地域を繋ぎ直すこと、地域が頼り合えるということを再構築することでしょうか。他にも食糧支援、学習支援、子ども食堂：沢山あります。お寺さんは、今でもありがたいことに沢山協力してくださっています。これからさらに協力して、色々な活動をしていけたらと考えております。

人と人のつながりだけでなく、支援団体や企業、そしてお寺がつながることによって様々な支援が出来るということがわかりました。大変貴重なお話をありがとうございました。

次回は、沼津市真楽寺で開催されている「子ども食堂」取材します。

(末廣綾)



あおぞら奨学基金



皆様のあたたかいご支援が

こんなにも役立っています!

全国青少年教化協議会との共同事業で、東日本大震災（平成23年・2011年）で被災した進学や就職を希望している高校生の授業以外に、必要な学習費用を1年12万円（1か月1万円）支給してきました。当連盟では現在6名の高校生を支援しています。これまでに27名の生徒が卒業し、社会で活躍しています。今年度からの新たにウクライナから避難してきた2名の生徒さんが加わりました。卒業された生徒さんか
らのお便りをご紹介します。

3年間の感謝と大学に向けて 女子

卒業までご支援いただき、本当にありがとうございます。心から感謝しています。

先日、志望校だった独協大学外国語学部フランス語学科に合格することができました。

私は高校3年間で、改めて「感謝」することの大切さや自分の環境が恵まれていることに気づきました。高校でも塾を続けたいという私の意見を尊重してくれた母や、何より奨学金を提供して下さいましたサポーター様には本当に感謝しかありません。本当にありがとうございます。ま

た、部活動でも、マネージャーという立場を経験し、逆に感謝されることの喜びや人を支えることの大変さが気がつきました。その経験を次にも生かせるようにしたいです。私はたくさんの周りの人に助けられて3年間を過ごせました。これからも感謝の気持ちを忘れずに生活したいと思います。また、感謝されるような人間になりたいです。
サポーター様も、お体に気をつけて健康にお過ごし下さい。

今後に向けて

男子

毎月奨学金を送ってくださりありがとうございます。お金は参考書や文房具を買うなど、大切にに使わせていただいています。

私の高校3年間は長いようで短かった3年間でした。入学時はコロナの影響で授業開始が遅れました。

大学進学を決めた私ですが、私の将来の夢である気象予報士の夢までまだまだ先です。楽しいこともあれば、苦しい時もあった3年間は決して忘れることがなく、大きな財産になったと思います。そして、学びというものは、一生続くものであり、今後も必要だと思っています。気象予報士という大きな夢を叶えるために、大学では、今まで以上に多くのことを学び、色々な経験を積みながら、充実した大学生活を送りたいと思います。

今年度から支援の2人の生徒さんを紹介いたします。

ハルキウ州出身の女子生徒です。戦闘が激しさを増す2022年4月に、家族8人でブルガリアに避難しました。先に日本に避難していた美術学校の同級生から、情報を得て7月に単身来日しました。日本文化についてはほとんどなじみがなかったのですが、はじめに日本語の勉強に取り組んでいます。書道部にも所属し、漢字や日本の伝統文化についても熱心に学んでいるところです。卒業後、日本の美術大学に進学し、イラストレーターの仕事に就きたいと考えています。

父はおらず、家族もポーランドで職を転々としているそうです。

高校女子

ウクライナ時は父、母、兄と4人暮らしてました。2022年2月24日にロシアがウクライナへ侵攻後、3月8日に母と兄とポーランドに避難しました。成人男性は避難の対象にはならず、父親はウクライナに残留しましたが定職に付けず日雇い労働者です。兄弟のみ日本に来ることにしました。

中学男子

Reports of Cultural lectures 

文化講座報告



令和5年4月13日、第125回文化講座「取り残される女性たち—SDGsや紛争地での活動を通じて見えるジェンダーの課題—」が講師に枝木美香氏（アユス仏教国際協力ネットワーク事務局長）をお迎えし、谷中天王寺にて開催されました。

白いハナミズキが満開の天王寺においてコロナ禍を跨ぐ3年ぶりの文化講座を開催する事ができました。久しぶりの講座に30名以上の参加者があり、理事長の挨拶から始まりました。

現在最も急がれるべき問題、SDGsの目標はより良い世界にしていこう、人間みな平等に幸せを得るにあります。しかし残念ながら現在は気候危機、エネルギー不足が心配され世界は異常気象、それに伴う食物飢餓を招く危機的状況にあります。また、ロックダウンの為に経済の影響で世界は極度の貧困格差が起こり、独裁政権が生まれました。その筆頭はアフガニスタン、アメリカの撤退以降タリバンが全土を掌握してからは女性の自由、人権は全て失われました。また、ミャンマーにおいては頼るべき仏教が現政権の庇護のもとにあるため、民主化を求める人々特に女性を救う方向に動いてはいません。最後にこのような悲惨な状況下にある女性達に「私たちに何ができるで

しょう?」と問われました。

他国の政権下の問題だけに我々には難し過ぎます。枝木先生はせて彼女たちに寄り添い、私達の祈りメールだけでも届けましょうと結ばれました。
(遠賀令子)

参加者の声

差し迫っている気候変動による危機が、大変深刻であること。コロナ禍での経済のひっ迫、さらにウクライナ危機によって極度の貧困にいる人々が増加し、貧富の差がさらに激しくなりつつあるという事。そして、アフガニスタンでは女性は、中学校への進学も働く事なども禁止され、社会で女性の存在が見えなくなっているのだそうです。さらに、ミャンマーでは内戦が続く仏教の名の下に女性への暴力が続いている。お話を聞いているうちに、焦る気持ちと、悲しみと怒り、もどかしさがない交ぜとなりました。私にも何かどうにか出来ないだろうか



か、私に何が出来るだろうか、いても立ってもいられなくなりました。

NGO職員の方は「お坊さんたちが『気候危機』のことを考えてくれるだけで嬉しい」

アフガニスタンの団体スタッフは「自分たちのことを忘れないでほしい」とおっしゃっているそうです。

きちんと事実を知り、受け止めて、考え何か出来ることを少しずつやっていくしかないのだと思いました。

(40代女性)



京都仏教セミナー

令和5年6月2日、コロナ禍により延期、延期になっておりました京都仏教セミナーが開催されました。台風の中、バス2台に参加者50名で京都駅を出発しました。

最初に参拝させていただいたのは、「古都京都の文化財」として「世界遺産」に登録されている浄土真宗本願寺派本山龍谷山本願寺（西本願寺）様でございました。本年は親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年の御勝縁に当たり5月にその慶讃法要が御円成されたばかりの時にご参拝いたすこととなりました。

本願寺様に到着すると、先ず安隠殿にて安永雄彦代表役員執行長より御挨拶と懇ろなる御法話を賜り、参加者一同身が引き締まる思いで、心が洗われました。引き続き特別のお計らいにより普段拝観できない国宝の各所、京都三名閣の一つに

数えられる飛雲閣、狩野探幽の描かれた障壁画のある書院、日本最古の能舞台等を個々にご説明いただきました。ながら見学いたしました。

日本の伝統仏教で宗祖聖人の血脉御相承は親鸞聖人の浄土真宗のみであり、それが立教開宗より800年も続くということは、まさに宗祖聖人の教えが歴代御門主の導きの下、僧俗を通して見事に伝承されていることを間近に拝見いたし、悠久の時を感じ心の底より感謝のお念仏が湧いてまいりました。

昼食は「関西建築界の父」と言われる武田五一氏の設計により、1927年に誕生した島津製作所旧本社ビルがレルストラランに変身した『フォーチュンガーデン京都』にてフレンチのフルコースをいただき、古都与フレンチの融合という文化の向上を身をもって体験させていただきました。

午後からは、青蓮院門跡様と並ぶ天台宗三門跡の妙法院門跡様・国宝三十三間堂を参拝させていただきました。到着後、直ぐ杉谷義純御門主の御法話を賜りました。杉谷御門主は全日仏婦とも深くご縁がおありとお話しされ、妙法院門跡・三十三間堂の由緒や信仰、また門跡寺院の謂れを明快にお教えくださいました。その後これもまた特別のお計らいをもって伽藍や国宝三十三間堂を、ご丁寧な説明を受けながら拝見させていただきました。特に三十三間堂は千体にも及ぶ千手観音像は圧巻で、まさに観音浄土の具現と「抜苦与楽」の思いしきりでございました。

今回のセミナーを通し良きご縁を頂戴いたしました本願寺様、妙法院門跡様に厚く御礼申し上げます。

久しぶりの京都仏教セミナーを通して会の和合が深まりいよいよ仏教興隆の奉仕活動に貢献しようとする参加者一同団結し和やかに散会いたしました。

(本多端子)



杉谷義純 御門主



三十三間堂



安永雄彦 代表役員執行長



西本願寺



三十三間堂



第70回 全日本仏教婦人連盟記念大会 のお知らせ

このたび 私ども全日本仏教婦人連盟も七十回記念大会を迎えることになりました
これもひとえにご尊台各位並びに賛助会員各位及び
会員各位のご支援ご高配のおかげと厚く御礼申し上げます
本年は公益社団法人十年目となり「子どもたちの未来のために」をテーマに様々の取り組みをしてまいりました
またインド光明施療院四十周年にもあたり 当連盟にとりまして意義ある年となりました
つきましてはご公務ご多用のこととは存じますが是非お祝いの席を供にして頂きたくお知らせ申し上げます

合掌
大会実行委員長 本多端子

記

日時 令和5年10月27日(金) 11時～14時
会場 帝国ホテル東京 本館三階「富士の間」
東京都千代田区内幸町 1-1-1
電話 03-3504-1111
受付 10時30分

第一部 11時
法要 大導師 全日本仏教尼僧法団
理事長 笹川悦導師
式衆 全日本仏教尼僧法団
記念講演 裏千家十五代前家元 千玄室氏

第二部 12時30分
祝宴

全日本仏教婦人連盟 第70回記念大会 を迎えるにあたり

information

私たち全日本仏教婦人連盟は皆様のおかげをもちまして、ご指導を授かりながら第70回記念大会を迎える運びとなりました。ここ3年間コロナ対策により、三密を避ける事・マスク生活や手洗い除菌も少しづつですがなくなり、以前の様な生活に戻りつつあります。対面での会議も増え、今まで出来なかったお祝い事も行う事が出来るようになりました。

三団体として「全国青少年教化協議会」、「日本仏教保育協会」の方々と、私達全日本仏教婦人連盟でウクライナから避難してきた高校生や中学生たちの支援を行っております。全世界の子ども達が幸せに暮らせますように、次世代を担う子ども達が、安心して受け継げるようにと、会員一同、心ひとつにしてこれからも、活動してまいります。

第70回記念大会には尼僧様方の法要後、茶道裏千家前お家元千玄室大宗匠様をお迎えして講演をいただきます。是非とも多くの方にお願い申し上げます。是非とも多くの方にお願い申し上げます。是非とも多くの方にお願い申し上げます。

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟理事長
花岡眞理子

花の種運動

平成16年に始めた花の種運動は、すでに21年になり「思いやりの気持ち」から「水は宝物」そして「海はひとつ」と子供たちの未来のためのテーマに繋がれ、リーフレットに会員の手作業で花の種を付けて、皆様のお手元に届けております。

今年も多くの方々より感謝とご意見や感想が寄せられましたので一部紹介いたします。

毎年「花の種」をお送りいただきありがとうございます。今年はコロナの前のように子供達と共に白象を引いてのパレードをする予定です。

お彼岸にお檀家様にお渡しし、とても喜ばれております。お盆には花が咲いたと報告を聞かせていただき、お花の持つ力、人を嬉しくさせる力を感じます。発芽率がとても良く、差し上げて心配することがないのですが、去年のフウセンカズラは大きく育ち過ぎたかもしれません。しかし、子供たちがフウセンを取って遊んでいるとも聞きました。長く書いて申し訳ありません。ありがとうございました。

本日4月8日お花まつり灌仏会を奉修し、併せてご参拝の皆様「お花の種」をお持ち帰り頂きました。皆さまとても喜んで持ち帰られました。ありがとうございます。合掌

毎年、春のお彼岸御中日の当寺大施餓鬼法要の時におまいり下さった皆様にお配りさせて頂いております。お檀家の皆様、喜んでお持ち帰りになってます。お手数おかけしてありがとうございます。何時も何かとお手数をおかけしありがとうございます。今後共宜しくお願い申し上げます。



今年も花の種を送って頂きありがとうございます。彼岸供養の折、皆様に配っております。近隣のお宅で色々な花が咲いているかわかります。皆も楽しみにしてくれている様です。

今年も花の種、沢山ありがとうございました。「花まつり茶会」で配布させて頂きました。皆さんに「生命を育てて下さい」と一言そえて、御持参頂きました。「毎年咲かせています。」と嬉しい声もあり、降誕会にふさわしい配布品、御礼申し上げます。当方もまきましたので、発芽を楽しみにしております。



印度山日本寺開山50周年記念式典

—ともに平和を願って—

仏教徒結集特別講演会、IBOS 落慶、菩提樹学園 45 周年・光明施療院 40 周年記念

記念法要と微笑みの国タイの旅

申込締切

2023年
10月31日(火)

日程：2023年12月4日(月)～12月10日(日)7日間

旅行代金：348,000円(6日間コース 288,000円)

月日曜	都市名	交通機関	時刻	日程
1 12月04日 (月)	羽田空港発 バンコク着	航空機 専用バス	午前 午後 夜	航空機でバンコクへ 入国後、専用バスでホテルへ ホテル内レストランにてご夕食 ご希望の方はエステやマッサージでおくつろぎください バンコク泊
2 12月05日 (火)	バンコク バンコク発 ガヤ着 ブッダガヤ	専用バス TG2327 専用バス	午前 12:20 14:00 夕刻	ホテルにて朝食 専用バスで空港へ 免税店でお買い物などお楽しみください タイ航空(タイスマイル航空)でガヤへ 到着後専用バスでホテルへ 釈尊成道の地ブッダガヤ参拝・見学 ブッダガヤ泊
3 12月06日 (水)	ブッダガヤ	専用バス	終日	印度山日本寺開山50周年記念行事 成道会等の法要、仏教学東洋学研究所図書館(IBOS)の落慶式 仏教徒結集「ともに平和を願って」 ・佐々木 閑 花園大学教授特別講演 ・北河原公敬 印度山日本寺竺主(奈良東大寺長老)、 佐々木閑 花園大学教授、中村康雅 国際仏教興隆協会理事長 (京都知恩院副門跡)による鼎談など ブッダガヤ泊
4 12月07日 (木)	ブッダガヤ ラジギール	専用バス	午前 午後	菩提樹学園創立45周年 光明施療院40周年記念式典 専用バスで聖地ラジギールへ (ヴィンピサーラ王幽閉跡、竹林精舎見学) ラジギール泊
5 12月08日 (金)	ラジギール ガヤ発 バンコク着	専用バス TG2328 専用バス	早朝 午前 15:00 19:35	霊鷲山にてご来光参拝 ナーランダ仏教大学跡見学 専用バスでガヤ空港へ タイ航空(タイスマイル)でバンコクへ 専用バスでホテルへ バンコク泊
6 12月09日 (土)	バンコク アユタヤ バンコク	専用バス	09:30 10:30 13:30 16:00 19:30	バンコク市内WFB(世界仏教徒連盟)本部訪問(希望者のみ) その後アユタヤ遺跡へ レストランご昼食 世界遺産アユタヤ仏教遺跡見学 見学後ホテルへ ホテル内「シャンパレス」にてご夕食会 バンコク泊
7 12月10日 (日)	バンコク発 羽田空港着	専用バス 航空機	早朝 午前 夕刻	専用バスで空港へ 航空機で帰国の途へ 羽田空港到着 お疲れ様でした

※《短縮6日間コース》もご用意がございます。詳細はパンフレットをご覧ください

※ 上記日程は現地交通事情により変更となる場合がございます

お写経のすすめ

Shakyo no Susume

お写経は、仏教の經典の文字を一字一字、丁寧に書写すること、心身を清める修行として、大きな功德があります。經典は、お釈迦様のありがたい教えをまとめたものなので、お写経を繰り返すことでその意味を感じ取りながら仏教の教えを学ぶことができます。お写経とは本来、徳を積むための行為であり、見返りを求めて行うものではありませんが、お写経を始めるきっかけとして、まずはどんな効果があるか知りましょう。

現代の医学的見地からみても、写経や読経が自己の治癒力を高める効果をもたらすということが分かっています。一つのこと意識を集中させることによって、神経系統、特に脳の働きが整理されて、からだ全体がバランスよく保たれます。そして各器官が活発化してくるのです。

最近では大学などの研究で、写経は字を書くという指先を使う作業のため、脳を活性化することに効果があり、認知症の予防を目的に高齢者用のリハビリプログラムとして有効であることが証明されました。多感な青少年、また高齢者のためまで幅広く効用があることが、いま科学的にも注目されています。

問合せ先

(公社)全日本仏教婦人連盟

☎ 151-0051

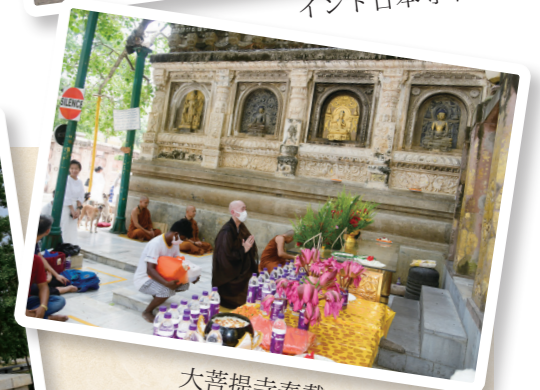
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10-205

【TEL】03-5772-0677 【FAX】03-6434-0184

【URL】http://jbbwf.jp 【MAIL】info@jbbwf.jp



インド日本寺本堂



大菩提寺奉職



宝篋印塔

ご案内

昭和59年より始めました「写経運動」の奉納金は、40年来ブッダガヤ日本寺境内にあります光明施療院での無料の施療資金として活用され、近隣の人々に大変に喜ばれておりました。近年はインドの諸事情に即し、子供たちの病気予防、保健指導等、今まさに現地に必要とされている事業として継続されております。

さてこの度、印度山日本寺は開山50周年、光明施療院は40周年、無料保育園「菩提樹学園」も45周年にあたります。併せて周年記念法要を行う事とあいなり、ツアーを企画いたしました。ぜひご参加下さい。

奉納金は一卷につき般若心経1000円、舍利礼文・十句観音経各500円をお願いいたします。

般若心経

舍利礼文

十句観音経

写経用紙は左記の三種類を用意しております。必要枚数をお申し込みください。(ホームページからも印刷できます。)

入会へのおすすめ

2013年4月より公益法人としてスタートいたしました。私たちは、仏教精神によって組織されている各種の仏教団体と連携しながら、全ての人々が国家や民族、宗教、言語、文化の違いを超えて共生し、人々の尊厳が実現するよう、女性の立場から社会および家庭生活に寛容精神を培い、国内外の福祉向上に寄与することを目的としております。

ぜひ会員として、目的達成のために活動を共にし、ご協力をお願いいたしたく入会のおすすめを申し上げます。

1、会費、入会金を添えて申込書にご記入の上お申し込み下さい。

会員の種類	年会費	入会金
①正会員（個人）	10,000円	5,000円
②維持会員（正会員で別途維持会費を納めた会員）	40,000円	5,000円
③団体・法人会員	50,000円	5,000円
④賛助会員	50,000円（1口以上）	

2、会員の特典

会員に対しては連盟が開催する各種の会合及び事業のご案内をいたします。

- イ、各協力団体への研修会等参加及び協賛。
- ロ、古寺めぐり等文化事業に参加。
- ハ、機関誌「全佛婦」「沙羅の樹」の送付。
- ニ、社会福祉事業（救援事業・被災地支援等）。
- ホ、「子どもたちの未来のために」（環境・教育問題）。

3、詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-10
 ☎ 03 (5772) 0677 <http://jbbwf.jp>

『沙羅の樹
19号』
休刊について

第70回大会記念誌発行に向けて準備のため10月1日号の『沙羅の樹』は休刊させていただきます。

写経納経のご報告

皆様からお預かりしていただきましたお写経500巻（昨年度分）は、5月4日、インド日本寺本堂での納経法要、大菩提寺への奉戴の後、日本寺内宝篋印塔へ納経を元駐在僧の番地章夫師（浄土宗）にお納め頂きましたので茲にご報告申し上げます。

今年度も、ご協力をお願い申し上げます。

ご報告

かねてよりの東西会員懇親会との要望が、この度27名の参加者により開催できました。

6月1日（木）午後5時30分会場となるフォーシーズンズホテル京都に集まり、館内のご案内を頂き、その後、懇親会に入りました。

東伏見会長はじめ参加された皆様方より、一言自己紹介など和我あいあいとした中、今年の70回記

念大会等への協力や翌日の仏教セミナーの話題、来年度の文化講座への希望など盛りだくさんなお話で有意義な懇親会となりました。

今回の企画（6月1日懇親会及び6月2日仏教セミナー）を丸山元常務理事、本多常務理事のお力で3年ぶりに開催できました事御礼申し上げます。また、参加されました皆様には台風の中でセミナーは大変思い出深い経験となられたことと思います。

事務局

仏婦 NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2023年4月～7月

4月

April

- 1日 「沙羅の樹」18号発行
- 5日 花まつり法要（雑司ヶ谷鬼子母神堂）
- 10日 第2回大会実行委員会（帝国ホテル）
- 11日 京都仏教会花まつり（ANAクラウン京都ホテル）
- 13日 125回文化講座（天王寺）
- 22日 大本山薬師寺国宝東塔落慶法要（奈良）
- 25日 三団体第10回キャンペーン会議（東京グランドホテル）

5月

May

- 23日 監査会（事務局）
- 24日 第186回宗教法人審議会（文化庁）
- 29日 第31回理事会（代々木会議室）
- 26日 四天王寺瀧藤管長晋山式並びに祝賀会（シエラトン都ホテル大阪）

6月

June

- 31日 （公財）国際仏教興隆協会理事會（オンライン会議）
- 1日 懇親会（京都）
- 2日 第126回文化講座（西本願寺・妙法院門跡・三十三間堂）
- 14日 第11回総会・第32回理事会（浄土真宗東本願寺派本山東本願寺）
- 19日 （公財）国際仏教興隆協会評議員會（目黒）
- 20日・23日 静岡県沼津市取材第2回常務理事会並びに第2回大会実行委員会（代々木会議室）
- 26日 第2回大会実行委員会（代々木会議室）
- 29日 （公財）全日本仏教会第1回総務財政審議員會（芝・明照会館）
- 30日 （公財）日本宗教連盟評議員會（オンライン会議）

7月

July

- 4日 観音庵（新宿）（公財）全日本仏教会訪問（芝・明照会館）訪問
- 6日 築地本願寺訪問（築地）
- 24日 第1回運営委員会並びに第3回大会実行委員会（代々木会議室）

事務局 だより



- 25日 第187回宗教法人審議会（文化庁）
- 28日・29日 ウクライナ生徒の歓迎会及び交流会（東京・鎌倉）
- 31日 子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン2023「ウクライナの今と明日を考える」（東京グランドホテル）

全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの活動に運用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。（順不同・敬称略 7月20日現在）

▼賛助金にご協力の方々

- 曹洞宗 浄土宗 念法真教
- 浄土真宗東本願寺派
- 真言宗豊山派 日蓮宗
- 真言宗須磨寺派 真言宗大覚寺派
- 真宗木辺派 総本山知恩院
- 妙法院門跡 青蓮院門跡
- 三千院門跡 日光山輪王寺門跡
- 圓照寺門跡 天台宗 法華宗陣門流

- 大本山池上本門寺 本山大坊本行寺
- 大本山川崎大師平間寺
- 大本山高尾山薬王院
- 高幡不動尊金剛寺 大本山護国寺
- 聖観音宗浅草寺
- 大本山善光寺大本願
- 大本山永平寺 大本山總持寺
- 総本山四天王寺 総本山西教寺
- 孝道教団 天王寺 總持寺 慈眼寺
- 上品蓮台寺 妙清寺 梅窓院
- 回向院 寶生院 清岸寺 光明院
- 宝蓮寺 淨真寺 満願寺
- 長専院 傳通院 高岩寺 竹林寺
- 真如苑（公財）仏教伝道協会
- （二社）日本仏教鑽仰會
- （二財）京都仏教会 静岡県仏教会
- 大和証券（株）
- 弁護士柴田龍太郎
- （株）経営総合研究所

▼ご芳志を頂きました方々

- 平林宣子 花岡眞理子 本多端子
- 桶屋良法 米田陽子 大橋百合子
- 松井百合子 日比野郁皓 山澤節子
- 板垣和代 末廣綾 匿名

▼写経運動にご協力の方々

- 村上和之 山口美和 海老名初江

▼花の種運動にご協力の方々

- 善照寺 甲山寺 湯浅正江

▼ウクライナ支援にご協力の方々

- 桶屋良法

▼「全佛婦」誌代にご協力の方々

- 河原時子

▼新入会員紹介

- 窪川香薫（浄土宗）
- 宮澤正順（浄土宗）

